佐藤 綾野 准教授

【さとう あやの】
早稲田大学院経済学研究科博士課程満期退学。新潟産業大学講師を経て現在に至る。北海道別海町出身なので暑いのは苦手。趣味はアメリカンドラマ鑑賞。おとめ座Ｂ型。三姉妹の長女。

- 計量経済学入門
- 計量経済学
- マクロ経済統計Ⅰ

経済と経済学のギャップを埋めること

研究テーマについて

最近の研究テーマは、外国為替市場における介入の効果についての実証分析です。日本の通貨当局が、2010年9月15日に6年半ぶりとなる為替介入を行ったことは記憶に新しいところですが、実際には、為替介入の効果に関しては、研究者間でも、また新聞やニュースなどの報道においてさえも、はっきりとした統一的な結論はでていません。例えば、2003年から2004年にかけて行われた35兆円もの巨額円売り介入の後の為替レートは、介入以前の水準より、円高になっていたのは有名な話です。

そこで具体的な研究内容としては、通貨当局は、介入によって為替レート水準を望ましい方向へ操作できるのか、あるいは為替レートのボラティリティを減少させることができるのか、効率的な介入の規模、最適な介入タイミングや実行する頻度について実証面から分析を行っています。

この研究の特徴は、近年入手可能となった高頻度データ(秒単位の市場で観察される取引オーダーの全て)を使用し、理論的にはマイクロストラクチャーモデルとノイズトレーダーメカニズムに基づいている点が挙げられます。

担当科目およびゼミ内容について

計量経済学は、経済理論を実際に観察されたデータを使用して分析するためのツールを学ぶ学問ですが、ツールをいったん身につければ、その応用範囲がとても広いのが一番の魅力といえます。

マクロ経済統計は、TVや新聞で報道される経済ニュースの根拠となる統計データを学ぶ学問です。統計データの性質や作成方法を学ぶと、報道されているエコノミストの主張が、どのような根拠に基づいているのか、あるいはその主張が信頼できるものなのかどうかを、自分なりの経済学的な視点で解釈したり評価したりできるようになるかもしれません。

経済理論を学んで、「あれ？　これって抽象化されすぎて、実際の経済とかけ離れているのでは？」「経済理論通りに、実際の経済って本当に動いているの？」と疑問に思う初学者の人も多いかもしれません。計量経済学やマクロ経済統計を学ぶ意義は、そのような経済学と経済のギャップを埋めるためにあると私は考えています。

ゼミ生のひとこと

ゼミでは、様々な経済事象についての実証分析を行っています。為替や金融の動きを実証することで、「生きた経済」を実感できました。佐藤先生のおかげで「経済は楽しい！」って思う毎日です。ゼミでの発表・初の合宿・工場見学……先生と過ごした3年間は笑いの連続でした。バブル経済の話にとても熱い、信頼度ナンバーワンの先生です。

佐藤ゼミ1期生